

NPO法人神奈川県日本ユーラシア協会 DVD上映会

戦艦ポチョムキン

セルゲイ・エイゼンシュテイン監督作品 (1925年 ソ連映画)



2015.6.14 (日)

14:00-16:00

横浜平和と労働会館 5階教室

横浜市中区桜木町3-9 (JR 桜木町駅より徒歩5分)

【主催】 NPO法人神奈川県日本ユーラシア協会

【参加費】 300円 (黒パン・紅茶代)

【お申し込み・お問い合わせ】

TEL/FAX: 045-201-3714

E-MAIL: eurask2@hotmail.co.jp

【当日連絡先】 TEL: 080-6700-5301 (関戸)

【映画情報】 1925年/ソ連/74分/モノクロ/サイレント作品 (ロシア語)
/監督:セルゲイ・エイゼンシュテイン/出演:アレクサンドル・アントーノフ、
グレゴリー・アレクサンドロフ、ウラジーミル・パルスキー他/音楽:ニコライ・
クリューコフ/撮影:エドゥアルド・ティッセ/製作会社:ゴスキノ第一工場

京都府舞鶴にある海上自衛隊第4術科学校というのをご存知でしょうか？旧日本海軍の海軍機関学校の校舎・跡地をそのまま利用した学校です。何を専門としているかという、経理・補給、そして給養です。旧軍は補給を軽視し、補給戦の敗北が戦争の敗北につながったとの反省から、旧軍の主計を充実させた結果、生まれたのがこの第4術科学校です。そして、特異なのは「給養」です。どういう意味か、分かりますか。簡単に言えば、調理です。

海上自衛隊の勤務は狭い艦艇の中で何か月も続きます。食事はその艦内勤務での大きな楽しみです。食事の良しあしで戦争の勝利にかかわることになるのです。ですから艦内勤務の調理担当者は腕がよくなくてはなりません。そのために第4術科学校内に調理専門の「給養」科が設置されたのです。フランス料理まで作れるほどの腕前になれるそうです。その第4術科学校の入校式の後、この「戦艦ポチョムキン」を上映するという話を聞いたことがあります。また、教程中にも「戦艦ポチョムキン」の逸話がしばしば語られるとのこと。いわく「ロシア革命は、たった一匙のスープが発端になった。わが海上自衛隊ではそんなことはあってはならない」と。

1905年6月14日の「戦艦ポチョムキン」の反乱は蛆の湧いた肉が入ったスープに不平を訴えたことから始まりました。日露戦争下、遠く離れたアジアでの戦争に行かねばならぬ困難、誰のために何のために戦うのかという疑問、それらが「一匙のスープ」から始まったのです。

戦争が起こる原因は無知と貧困ではないでしょうか。反乱から110年、今の日本も無知と貧困があふれています。学校やマスコミは真実を教え、報道することを躊躇しています。表面上、景気回復をうたいながら失業者は街にあふれています。このことをしっかりと見つめなければいけません。「戦艦ポチョムキン」で描写されている下級兵士や市民の姿は現在の日本に重なります。そのことを映画を鑑賞しながらしっかりと学びましょう。

(関戸)